



S H I R A K A W A

町議会とあなたを結ぶ広報紙

しらかわ 議会だより

No.197

2021年2月1日



第4回定例会 (12月17日、18日)

条例改正・補正予算など、10議案を可決

一般質問、町内・町外の視察報告 など

議会のホームページ (<https://www.town.shirakawa.lg.jp/gikai>) もご覧ください。

補正予算・条例改正など

10の議案を可決

白川町議会第4回定例会を、昨年12月17日と18日の2日間にわたって開催しました。

今定例会では、4人の議員が一般質問を行い、町政の課題等について質問したほか、補正予算、条例の改正など町長提出の9議案と議員提出による意見書の1議案を審議し、いずれも全員の賛成をもって原案を可決しました。



条例の一部改正

▼白川町国民健康保険税条例の一部を改正

地方税法施行令の一部を改正する政令が令和2年9月4日に公布されたことに伴い、所要の改正をする。

(改正の主な内容)

個人所得課税の見直しにより影響を受けないよう7割、5割、2割の軽減判定基準を見直すもの。

▼白川町農業基盤整備事業分担金徴収条例の一部を改正

経営体育成基盤整備事業の受益者負担の適正化を図るため、所要の改正をする。

その他

▼定住自立圏の形成に関する協定の締結

定住自立圏構想推進要綱に基づき、中心市宣言を行った美濃加茂

市と白川町の間において、より快適で幸福な暮らしの実現に必要な都市機能を強化するため、定住自立圏に関する協定を締結する。

▼町道路線の廃止及び認定

主要地方道下呂白川線の改良に伴い、町道路線を再編成するため、一部を廃止し、新たな部分を町道に認定する。

▼意見書の提出

防災・減災対策を強化する国土強靱化3カ年計画が令和3年3月で終了するため、引き続き激甚化する自然災害などへの備えを充実するとともに、気候変動への適応を進める取り組みを強化し、緊急防災、減災事業・緊急自然災害防止事業等を令和3年度以降も延長するよう、白川町議会として国の関係機関へ要望する。

一般会計補正予算で
2157万円を追加

今回の補正予算では、一般会計で2157万円を追加して、補正後の総額を75億2841万円に、簡易水道特別会計で600万円を追加して、補正後の総額を5億7960万円に、介護保険特別会計で4700万円を追加して、補正後の総額を11億8857万円に、後期高齢者医療特別会計で85万円を追加して、補正後の総額を14億6550万円としました。

その主な内容は次のとおりです。

■追加された主なもの

- ・一般管理費備品購入費 407万円
- ・住宅取得等支援事業補助金 560万円
- ・子育てあんしん住宅リフォーム支援事業補助金 140万円
- ・ふるさと応援寄付金活用事業補助金 280万円
- ・選挙用備品購入費 528万円
- ・介護保険特別会計繰出金 325万円

・簡易水道特別会計繰出金

600万円

・よいいちテラス施設整備工事費

300万円

・トマト就農者支援事業補助金

237万円

・住宅リフォーム等支援事業補助金

5400万円

・クオーレの里施設整備（浄化槽）工事費

900万円

・県営事業負担金事業

180万円

・河川砂防工事費

210万円

・気象河川情報収集システム構築工事費

3100万円

・デジタル無線機購入費

890万円

・学校連絡手段デジタル化システム導入費

131万円

・スクールバス購入費

1973万円

■減額された主なもの

・職員人件費

2494万円

・新型コロナウイルス対策町単独持続化給付金

3700万円

・学校用ネットワーク関連機器購入費

3568万円

主な質疑

問 ふるさと納税が多くなった理由は何か。また、寄付された方と

のつながりをお聞きしたい。

答 町が委託する「ふるさとチョイス」のホームページ上で、7月の大雨豪雨による被害への支援を呼び掛け、300万円ほどの寄付が増加した。また、コロナ禍での寄付が主に増えた要因だが、昨年の同時期と比べ700万円ほどの増額となっている。寄付された方の情報を大切に管理しながら、引き続き本町を応援していただけよう御礼状等の送付をしている。

問 町内業者でコロナ対策としてアクリル板を導入するなど感染予防をした所は、どのような状況か。

答 コロナ禍での感染予防として町でアクリル板を斡旋してはいないが、岐阜県では感染予防対策を実施する店舗にシールを配布し、お客様に安心して利用いただけるよう取り組んでいる。本町の感染症対策補助金は43件の申請があり、560万円ほどの交付となっている。主に店舗よりは事業所や介護施設での感染防止に係るものとなっている。

問 よいいち美濃白川のウッドデッキ建設に伴う設計監理料につ

いて伺いたい。

答 当初は木造での工法を計画していたが検討した結果、構造を鉄骨造へ変更したことから工事費が増額となり、また、安全性を確保することも必要となり、設計監理を委託したいと考えている。

問 気象河川情報収集システム工事の内容についてお聞きしたい。

答 雨量観測機器や河川監視カメラが老朽化し、6月の補正予算でリースによる導入を検討したが、工事に係る費用が7割補填のある起債対象となることから今回の補正で改めて計上している。夜でも川の水位が分かる赤外線カメラに変更することも予定している。

問 学校連絡手段デジタル化システムを小中学校に導入する経緯をお聞きしたい。また、年間経費はどうか。

答 文部科学省から示された「学校・保護者等間における連絡手段のデジタル化の推進」に基づき導入するものであり、今まで児童生徒を通じて保護者が受け取っていた紙での文書から、メールを使った配信や返信等が可能となるものである。コロナ禍での感染予防に

一層つながることを期待している。このシステムの今年度維持費は、3カ月分の使用料24万円を予定している。

第4回臨時会を開催

11月26日、白川町議会第4回臨時会を開催し、条例の改正3件について審議し、いずれも全員の賛成をもって原案のとおり可決しました。

▼白川町職員の給与に関する条例及び白川町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正

人事院勧告の内容に準じ、一般職の期末手当支給率を減額し、会計年度職員の期末手当に係る引用規定について所要の改正をする。

▼白川町常勤の特別職職員の給与に関する条例の一部を改正

白川町議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正

人事院勧告の内容に準じ、常勤の特別職及び議会議員の期末手当支給率について減額する。

まじの課題を問う

一般質問 4人の議員が登壇

問

現在の行政課題の進捗と
町長の進退について



安江孝弘 議員

問 新庁舎建設問題の現状と次年度以降の計画はどのようなか。

横家町長

答 行政の目的は町民の生活を豊かにし、安全と安心を確保することだと考えている。町長就任後、赤川や中川簡易水道浄水場の改修、また、下金地区への水道管布設替工事に着手してきた。庁舎整備に関しては、学校の再編方針案が示され、令和2年4月の議会議員協議会で町の方針を示し、現在、河岐地内で候補地の調整を進めている。最終的な候補地を示せるよう早く協議を進め、今年度中に議会に諮

りたいと考えている。順調にいくば、来年度に用地取得と基本設計、再来年度には実施設計を予定し、早ければ令和5年度末には庁舎建設に着工できるのではないかと思っている。

問 次期に向けた町長の進退をお尋ねしたい。

横家町長

答 町長としての進退については「来る秋は、雨か嵐か知らねども、今日の勤めに田の草を取る」とさせていただき、今の職責を全うしたいと考えている。

問

新型コロナウイルス感染症
拡大防止対策事業の効果等
について



藤井宏之 議員

問 本町でも国や県の方針に従い、新型コロナウイルス感染症拡大防止事業がこれまで第4弾にわたって事業展開されてきた。3億5,000万円近くの交付金が国から配分され、それぞれの事業での効果や課題、また、第3波に向けた感染防止策を検討しているのであればお聞きしたい。

安江総務課長

答 国からは特別定額給付金や子育て世帯臨時特別給付金、また、学校教育における情報化への取り組みなどに対し、それぞれ支援が行われている。それとは別に臨時交付金として、3億5,500万円の交付がされている。本町では感染防止策と経済支援策に併せて51の事業を展開している。

感染防止策では、マスクや消毒液の購入、避難所用の備品購入、福祉施設をはじめとする各事業所・施設の感染防止策の支援、スクールバスの購入など様々な事業を進めている。現時点でその効果を図ることは難しいが、町内の皆様のご努力で感染防止が図られていることをあり

がたく思っている。

経済支援策では、町民の皆様へお一人5,500円の地域振興券配布や、50,000円で67,000円分の地域振興券が購入できる支援を行っている。また、町内の建築事業者への支援策として行った住宅リフォーム補助事業は、11月末で235件の申請があり、6,700万円の補助金交付申請を受け付けており、全体事業費で2億7,000万円となっている。

年末・年始を迎える町内の飲食業の皆様にとっては、ようやく戻り始めたお客さんが第3波により離れることが予想される。ぜひ町民の皆様も支援のご協力をお願いしたい。

第3波に向けた計画については、国から第3弾の臨時交付金が検討されていると聞く。情報収集に努めつつ、商工業や医療関係者支援など状況を見据え、感染防止対策を図りながら、事業推進を図りたいと考えている。

問 町民のための公園等の建設について



梅田みつよ 議員

問 前年度に行った子ども議会
で公園がほしいという声があり、町民からも未だにそれを望む声が強くなる。最近では災害対策やコロナ対策にばかり目が行きがちであるが、コロナ禍で町民の癒しの場となる公園を整備する考えはないか。

長尾企画課長

答 公園の整備を求める声が多いことは承知しているが、広範な地形、自然条件、整備費及び維持費を含めた財政上の見地から、身近で安全な各地区の学校・保育園の遊具等の活用をお願いし、併せてクオーレふれあいの里（以下「クオーレの里」という）などの遊具の整備を進めたいと以前に町長が答弁したとおりであり、ご質問にある町内に公園を整備する考えはない。

問 クオーレの里はベンチや遊具が充実していないため、公園を求め他市町村へ出かける方もいる。コロナ禍で育児や生活に多大なストレスが溜まっている中、対応策はどのようなか。

長尾企画課長

答 クオーレの里の芝の広場に、今年度も遊具の整備を行い、町内の利用が徐々に増えていることを把握している。また、町内には白川北保育園に併設した子育て支援センターで、町内の乳幼児、保護者の交流の場を提供している。

問 クオーレの里の遊具は以前の物は撤去され、説明のあった遊具は幼児用の滑り台2台のみだが、それで充実したと言えるのか。

長尾企画課長

答 遊具については、児童向けの遊具も整備して充実を図りたい。

問 以前には学校の遊具を使用制限していたとの記憶だが、現在の状況をお聞きたい。

藤井教育課長

答 学校の遊具を制限したということはなく、毎年専門業者による点検を実施して安全に使えるよう配慮しており、ぜひご利用いただきたい。

問 コロナ禍でペットの需要が増え、ドッグランの要望も高まり、県内各所で建設されてきている。耕作放棄地が課題となっており、公園整備を含めた建設を前向きに検討できないか。

長尾企画課長

答 ドッグランの建設需要は不明だが、公園の整備も含めて、候補地や地域の同意が得られれば検討したいと考えている。

横家町長

答 公園整備を希望する方がいることも承知しているが、効率よく優先順位をつけて検討していかねばならない。また、町内の企業がドッグランの建設資材の販売に乗り出していると聞いている。

問 国道41号上麻生防災事業のトンネル工事から出る残土はどうなっているのか。また、残土を公園整備に活用する考えはないか。

長尾企画課長

答 トンネル残土を公園に活用するかは、具体的な公園整備計画がないため考えていない。

横家町長

答 トンネルの残土利用については、令和2年度8月の補正予算で測量費を計上している。基本的には、地域の皆様から埋めてほしい箇所等の要望が上がっている所を重点的に行うこととしている。工事が急ピッチで進むことも考えられ、残土利用の候補地として挙げることはできても国交省が許可するかは不明である。できれば地場産業の振興に使える土地の確保につながればありがたいと考えている。



ドッグランの様子

問 悩み事相談窓口の充実に
ついて



服部圭子 議員

問 コロナ禍にあつて、心身の健康保持など多様な悩みにも寄り添う相談窓口の充実が切に望まれる。現在の相談事業の成果と課題はどうか。

答 三尾地域包括支援センター長
本町では、悩み事に対する相

5つの相談事業を紹介

	項 目	開催回数	相談件数や事業内容
①	心の健康相談	年10回	14件
②	人権相談	年6回	2件
③	若者サポートサロン	年4回	家族との集いの開催
④	無料法律相談	年6回	33件
⑤	メール相談	適 宜	令和2年度から開始

※上記①～④は前年度実績による

談窓口として、心の健康相談や今年度に新たに始めたメール相談等（上表）の5つの事業を実施している。相談者は「話を聞いてもらい気持ちが楽になった」と語られる方がほとんどであり、心のゆとりにつながっていることが嬉しい成果となっている。

また、保健福祉課の包括支援センターでは、毎月200件ほどの相談を行い、各課と連携し、生活困窮・介護など様々な内容に対応している。

課題としては相談窓口の受付件数が少なく、困つていても相談に來られない方が多くいることは承知している。今後は相談を待つだけでなく積極的に情報や支援を届けるアウトリーチ型（予防型の福祉の1つの形）の相談が充実策の一つと考えている。

問 困ったら、すぐに相談できる体制をどう発信するのか。

答 三尾地域包括支援センター長
相談したいと思った時に相談先がすぐに分かることは必要である。今後も適宜、相談体制のチラシをお示しし、必要とする場合に目に留まりやすい工夫をしたいと

思っている。また、ホームページの掲載にも取り組みたいと考えている。

問 自然を生かした持続可能な農業施策について

問 現在策定中の第6次総合計画の中に農業振興の柱として、地域ぐるみの集落営農の推進に加え、有機農業も加えるべきと思うが、どう考えるか。

答 三宅農林課長
有機農業は、安全・安心の代表格であるとともに都市住民を引き付ける魅力がある。生産物だけでなく取り組み自体も「ブランド」に値すると考えている。第6次総合計画にもそれを反映して盛り込むよう予定している。

問 経済の見通しが不透明な中、食糧の町内生産や家庭菜園を強化し、地域内循環率を高める施策を進めることについてお聞きしたい。

答 三宅農林課長
流通の発達、食の多様化など社会情勢が刻々と変化する中で食

の選択は家庭や個人の判断になると考えている。白川野菜村チャオへの出荷生産物を増加させる取り組みは必要だが、食の地域内循環の向上を進めるつもりはない。

問 世界中で発がん性が発覚し、禁止や規制されている除草剤のグリホサートを日本では手軽に購入できる環境にある。基準を守っていても自然を壊し健康被害を招く恐れがあるが、除草剤を使わなくても良い技術を進める考えはないか。

答 三宅農林課長
農薬利用については、除草される方や地域内の話し合いにより判断していただくことが適切であると以前にも示したことがあり、脱除草剤技術に取り組むことは考えていない。

答 横家町長
今まで除草剤の恩恵を受けてきたが、農薬使用は行政からの指導ではなく、自分も含め町民の運動として盛り上がり、食糧生産をする方が自覚する雰囲気にしてゆくことが普通であると思っている。

議会行政視察を実施（長野県・群馬県：12月4日～5日）

令和2年12月4日から5日にかけて議員による行政視察を行いました。時節柄、コロナ感染を心配しましたが、細心の感染予防を実施しました。具体的には、手指消毒、定期的な換気、夕食が密にならないよう各自の部屋での対応、外出禁止、不織布マスクの着用などを徹底しました。

庁舎の建設途中である上松町、大桑村の外観を車中から確認するとともに、視察を実施した2カ所の内容は次のとおりです。

朝日村役場（長野県東筑摩郡 朝日村）

2018年5月に開庁した朝日村役場は、1. 村民の安全、安心な暮らしを守る災害に強い拠点となる庁舎、2. 村民サービスの優れた庁舎、3. 事務効率の向上、高度情報化に対応した庁舎、4. エコロジーの観点を取り入れた地球環境にやさしい庁舎、5. 村民に親しまれるシンボルとしての庁舎の5つのコンセプトを掲げ建設されました。検討開始から7年の歳月をかけ建設委員会の設置のほか、「基本構想（案）」「建設基本計画（案）」「建設基本設計（案）」の3度に渡り、その概要版を全戸配布し、パブリックコメントを実施するなど村民の意見を集められました。

特に内装仕上げ材に村民からの寄贈木7種を使用した他、あらゆるところに地域材を用いることで村民が誇りと親しみを感じられ、県民交流ホールや玄関に寄付された樹齢160～300年の檜がシンボリックに使われているのが印象的でした。また、太陽光パネルの設置をはじめ、地中熱ヒートポンプの導入により年間の暖房費18万5,000円という低コストで地球環境にやさしい庁舎を実現しています。

議場は机の移動が可能で通常の会議でも使用されており、さらに壁を開けると外へ解放できる作りで、村民のマルシェなどを開催できる交流の場になっており、開かれた議会の一つの方法だと感じました。

本町でも新庁舎建設に向けた検討が始まり、既に3年が経過しています。本年度中に場所が選定される見通しですが、大変参考になる視察でした。



朝日村小林弘幸村長と庁舎前にて（下段中央）

道の駅 川場田園プラザ（群馬県利根郡 川場村）

人口3,300人の村に年間190万人が訪れるという「道の駅 川場田園プラザ」は、赤字に転落したことから、平成18年に造り酒屋の社長であった永井彰一氏が就任され、徹底した従業員の意識改革を図り、都会のお客さんにも川場村の味わいを喜んでもらえるよう従業員教育を実施しました。

道の駅 川場田園プラザは一日遊べる広い敷地に20近い施設がひしめき合い、年商は直営店で16億3,000万円、テナント店で3億9,400万円に上るとのことです。社長就任後、3年で見事に黒字化経営に仕立て上げ、現在に至っています。

笑顔で挨拶する従業員や直売所に持ち込む生産者が親切な説明をされている姿から、社長の思いと同じ方向を向いていることを感じました。喜んでもらえる接客が鍵だと確信しました。

管内視察を実施、研修会・勉強会に参加

ドローン学校を視察

10月29日、町議会総務産業常任委員会協議会で、河岐にあるドローン学校を視察しました。本町とは、ドローンを活用した地域活性化に関する連携協定を締結しています。災害時に備えた協力体制の確認やドローンを取り扱う資格取得の教育プログラムについて説明がありました。



ドローン学校の現状を聞く

楽集館を視察

10月29日、町議会文教民生常任委員会協議会で、9月の定例会でコロナ対策の一つとして空調施設の設置が決まった楽集館の視察を行いました。今回設置が決まった「換気設備」は、窓を開けることなく館内の空気を入れ替えることができる装置で、これによりコロナによる利用制限の改善が期待されます。設置工事は令和3年2月末の完成を予定しています。

また、リニューアルされた3階の資料展示室の視察も行いました。白川出身の偉人の方々の展示がされていますので、皆様も楽集館へお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



コロナ禍での対応を確認

町有林の状況を視察

10月29日に町議会では、赤原町有林(黒川地内)と清水町有林(坂ノ東地内)を視察し、木の育成や管理状況を確認しました。

佐見保育園・佐見小学校などを視察

11月26日、白川町議会は佐見地区にある施設の視察を実施しました。

佐見保育園では、田口園長から「元気な声が響き渡る明るい保育園を目指して、自立心・人との関係・表現力を高める様々な指導を行っている」と説明を受けました。

また、佐見小学校では視察に併せて公開授業を実施していただき、少人数学級や複式学級の様子を拝見しました。授業を聞く子ども達の姿や雰囲気など、先生が子ども達のやる気を存分に引き出すものとなっていました。「子どもの成長を1年1年大切にしながら、指導者として一丸となって取り組んでいきたい」と富多校長から、成長する子ども達への思いをお聞きました。

どちらも人数が少なくなっていますが、新型コロナウイルスに負けず、健やかに成長してくれることを祈っています。

その他、せせらぎ園デイサービスセンター、農家カフェSoia、鯉の赤煮施設、ふるさと体験村キャンプ場の視察も行いました。



佐見小学校の授業から

議会ニュース

○議員用タブレットの導入について

町議会では議員用タブレットの導入を検討しています。6年前に導入の検討をした経緯があります。が、コロナ禍にあつてはオンライン化を図り、議員間の情報共有とペーパーレス化を進めようとするものです。

11月12日に議員用タブレット導入を検討するため、坂祝町議会へ議員4名（正副議長、両常任委員長）で行政視察を実施しました。坂祝町議会では、平成25年から議員へのタブレット導入が進み、議員はタブレットを持って会議に臨み、既にペーパーレス化されています。

平成2年12月の補正予算でタブレット導入ができないかを検討しましたが、協議の結果、令和3年度予算で導入することとし、利用しやすい環境整備なども含め、推進担当者を決めて進めています。



坂祝町議会（議長ほか4名の方）から説明を受ける4名の議員

○令和3年度予算に関する要望書を町長に提出

町議会では11月26日、令和3年度予算に関する要望書を町に提出しました。

コロナ禍で財政が厳しいことも予想される中、情報化社会に向けた取り組み、公共交通の利便性向上、災害時に備えた防災強化などを中心に要望しました。

◆要望書の内容を一部紹介◆

- コロナ対策の強化と支援
- 公職選挙法改正に伴う条例の制定
- 国の補助制度以外のサポカー補助金の創設
- 防災に強い避難所の強化や消防団員等への免許資格取得に対する支援
- インターネット環境を強化するため、様々な分野への支援
- 福祉有償運送の早期実現に向けた公共交通の利便性向上
- 農業者への持続可能な取り組み支援の確保
- 危険な空き家の取り壊しに関する支援の検討 など



11月26日に町長へ予算要望書を提出

○新会派「新政会」が

結成されました。

令和2年6月に議会の会派の結成等に関する要綱を定めたことから「新政会」が結成されました。メンバーは次のとおり6名です。

◎細江茂樹議員、藤井宏之議員、
嶋田有康議員、渡邊昌俊議員、
梅田みつよ議員、今井昌平議員
（◎・・・代表者）

■会派とは…

町議会において議員が町政を推進するために構成する団体をいいます。政策の立案及び提言に関し、会派内で合意形成することや会派の議会活動を町民に説明して理解を得ることなどの責務があります。

・・・徹底しよう・・・
マスク、手洗い、消毒を!!
コロナを終わらせるために



議会の動き(10月21日～1月20日)

10月

- 25日 町民体育大会 総合開会式
例月出納検査
- 29日 議会町有林視察
町内視察(河岐)

1月

- 5日 消防出初め式
- 15日 議会議員協議会
庁舎建設特別委員会
議会議員協議会(議員会)
議会広報編集委員会

11月

- 3日 町表彰式
- 4日 地方自治連絡協議会
- 7日 黒川分村遺族会慰霊祭
- 12日 坂祝町行政視察
- 17日 可茂町村議長会及び正副議長交流会
- 25日 白川町地域包括ケア推進会議
例月出納検査
- 26日 白川町議会第4回臨時会
町議会より町へ令和3年度予算に関する要望書を提出
町内視察(佐見)

12月

- 1日 議会運営委員会
- 2日 白川町総合計画審議会
県町村議会議長会臨時総会及び
第3回評議員会
- 3日 介護保険運営協議会
- 4日 議会行政視察(～5日)
- 9日 議会議員協議会
議会議員協議会(議員会)
- 13日 国道41号上麻生防災起工式
- 17日 白川町議会第4回定例会(第1日)
- 18日 予算審査特別委員会
白川町議会第4回定例会(第2日)
文教民生常任委員会協議会
議会議員協議会(議員会)
議会広報編集委員会
- 23日 可茂広域行政事務組合定例会
- 25日 例月出納検査

表紙は語る

表紙の写真は、「議場での議員」の様子



令和3年が始まりました。議員一同、新たな気持ちで町発展のために、誠心誠意、職責を全うしたいと考えております。

12月定例会には、梅田みつよ議員の手作りによるシトラスリボンを議員全員が胸につけ会議に出席しました。このリボンは、たとえコロナウイルスに感染しても、だれもが笑顔の暮らしを取り戻せる社会になるよう願うものです。

議会だよりに関するご意見やご要望がありましたら、議会事務局(Tel72-1311 内線290)までご連絡ください。

あとがき

▼昨年10月からヘルニアを患い、足の痛み悩まされました。学んだのは、「心と体はつながっていること」でした。痛みで眠れない時、映画を見たら、知らないうちに痛みを忘れていました。また、12月上旬に実施した議会の視察となったら痛みもなくなり、2日間は奇跡のように過ごすことができました。(今は治りました)

▼皆さんの「心」は元気ですか。コロナを恐れて心に雲がかかっていますか。心に雲がかかると体の免疫力が落ちて、病気を呼んでしまいます。マスク着用、手洗い、手指消毒を徹底して、毎日、外で大きな深呼吸、軽い運動、おしゃべり、笑いましょ。心の雲を追いやる楽しみや思い出を毎日作ります。コロナは入るスキがなく、退散してくれるでしょう。

▼絵本を紹介します。「のら猫のかみさま」です。毎日、必死でエサを探す野良猫が飼犬からえさをもらう物語です。寒い冬のある日、犬と別れることになった野良猫は、今までの犬の心に気づき、「ああ、神様はいんだ」と泣き続けます。誰もがすぐそばにいてくれた人の心や温かさにつづいた時、心から幸せの涙を流すのかもしれない。

白川町の集館には、素敵な絵本が沢山あります。ぜひ、心の栄養に読んでみてはいかがでしょうか。

服部圭子

この広報誌には再生紙を使っています。